

6

緊急時処方薬の取り扱い

6－1 医療用医薬品の管理

学校には医師から処方された薬（医療用医薬品）を所持している児童生徒が在籍しています。この医療用医薬品は、所持している児童生徒が自身で携帯・管理することが基本となります。そのため、管理や使用方法について教職員が共通理解しておく必要があります。

しかし、本人が携帯・管理するのが困難であると判断した場合、教職員、保護者、本人、主治医、学校薬剤師、教育委員会等が十分な協議を行い、適切な対応策を検討する必要があります。また、教職員が児童生徒に医療用医薬品を使用する行為は、「医行為」にあたるので、行ってはいけません。教職員は介助者として児童生徒が処方薬を内服・吸入できるようにしましょう。

また、エピペンの注射は法的には「医行為」にあたり、医師でない者（本人と家族以外の者である第三者）が「医行為」を反復継続する意図をもって行えば医師法（昭和23年法律第201号）第17条に違反することになります。しかし、アナフィラキシーの救命の現場に居合わせた教職員がエピペンを自ら注射できない状況にある児童生徒に代わって注射することは、緊急やむを得ない措置として行われるものであり、医師法違反になりません。